

Ⅰ 「社会参加」について

社会の急激な変化は、人々の生活様式や価値観を大きく変容させた。地域社会での人間関係はもとより、身近な家族との関係までが希薄化する中で、様々な社会問題が発生し、人々間の信頼感が喪失しつつある。また、社会への所属感や地域での連帯感を感じる機会が減少し、周囲の人々から孤立した生活を求める傾向が高まるなど、「行き過ぎた『個』への傾倒」という指摘（大阪府社会教育委員会議提言「家庭・地域社会の教育力向上に向けて～教育コミュニティづくりの勧め～」平成11年1月）もされている。

一方で、人々は様々な社会問題に直面したとき、改めて他者や社会とのつながりのなさを意識するようになった。より豊かに生きていくためには、自己肯定感や他者への信頼感を得ることが重要である。人々間には、地域や社会とのつながりを持つことへのニーズが生まれてきている。

行政においても、様々な課題解決のために施策を展開してきている。今日、より効果的な施策を実施していくためには、「人と人とのつながり」や、受け皿としての「地域社会」の重要性が認識されるようになった。

また、企業や経済分野だけでなく、教育や福祉の分野でも、「人と人がつながりあう」ことで作られる信頼やネットワークを重視する、「ソーシャル・キャピタル」の有効性が広く認識されるようになっており、これを豊かにする方策がそれぞれの分野で模索されている。

地域におけるソーシャル・キャピタルを豊かにする原動力として、より多くの人々の社会参加を促進することが重要である。社会参加とは、『個人や社会の現状をより豊かにするために、今よりもあと少しの広がり意識して、新た

ソーシャル・キャピタル

- * 「ソーシャル・キャピタル」とは、直訳すると「社会資本」となるが、ここでは都市基盤のようなハードな「モノ」ではなく、人間関係のネットワークやそのネットワークが育む相互理解、信頼、規範などの、いわばソフトな「関係」のことをさしている。
- * ソーシャル・キャピタル研究の第一人者とされるアメリカの政治学者ロバート・パットナムによれば、このようなソーシャル・キャピタルの蓄積が、人々の自発的な協力を促し、経済面や社会面での様々な成果を生み出すという。
- * 信頼感や共通の規範に裏打ちされた人々のつながりが、経済発展や教育・福祉の向上、近隣の治安の向上や健康・幸福感の増進をもたらし、ひいては民主主義というものを実質的に機能させていくというのである。

な人たちと出会うことに向けた行動』であり、そのプロセスにおいて、参加者は自分や他者のかけがえのなさや、人々が協働することの大切さに気づくとともに、社会や自分たちの住むところが少しでもよくなることをめざした、さらなる活動につながるものである。

社会参加は、まさしく人と人がつながりあう、きっかけ・場面であり、人と人とのつながりの構築を目的とする社会教育からのアプローチを期待したい。